

「小さな親切」実行章贈呈式にて、サプライズ演奏を前に待機する仙台育英の吹奏楽部の皆さん



エールをありがとう 応援団の“熱い夏”

記録的な猛暑となった昨年の夏。熱戦の甲子園の裏で、高校野球を応援する生徒たちに“熱い”友情が生まれていたのをご存じでしょうか。

運動の会員校である千葉県・専修大学松戸高等学校（以下、専大松戸）野球部は、春夏連続甲子園へ出場。しかし3回戦当日、本来であればぎっしり埋まるはずのアルプススタンドに、応援団の姿がありません。実はこの日、台風の影響で新幹線が大幅に遅れ、吹奏楽部、チアリーディング部などの応援団が甲子園までたどり着けなかったのです。同校応援団は新幹線の中で野球部敗退の報を聞くことになり、無念の夏となりました。

この出来事を知った仙台育英学園高等学校吹奏楽部の指揮者・馬路俊祐さんは、同じ応援する立場としてこの悔しさが痛いほどわかりました。そこで、彼らの無念を晴らしたいと、自分たちの試合で専大松戸のチャンステーマ曲『エル・ティグレ』を演奏することを提案。

「曲を真似したと思われるのでは」「練習する時間がないのに、失敗したらどうしよう」など不安の声も上がりましたが、部長の西城広葉さんら3年生が中心となって、「失敗してもいい。応援する気持ちを届けよう」と説得。準々決勝前日に譜面を起こし、ぶっつけ本番に近い状態で演奏しました。

この試合をテレビで観ていたのは、専大松戸の



専大松戸の皆さん、実行章を「ありがとう」

五味光校長。聞き慣れた『エル・ティグレ』の演奏が始まると、すぐに「仙台育英が私たちを応援してくれている!」と気づき大感激。卒業生などからも次々と連絡が入り、五味校長はこの感動と感謝を伝えるため、同校に「小さな親切」実行章をと推薦してくださいました。

去る10月20日（金）、仙台育英で行われた贈呈式は、同校吹奏楽部が『エル・ティグレ』で専大松戸の理事長・校長らを迎えるサプライズでスタート。再び感動が蘇った専大松戸の皆さんから、改めて熱い感謝のメッセージが伝えられました。

野球部同士は練習試合などで交流はあるものの、それ以外の学校関係者、生徒が対面するのは今回が初めて。仙台育英の馬路さん、西城さんは二人とも「卒業後も吹奏楽を続けたい。そしてこれからも、音楽の力で誰かにエールを届けたい」と話してくれました。

音楽がつないだ両校の友情は、今後も末永く続くことでしょう。